

 <h1>若葉小 だより</h1> <p>令和5年3月1日発行</p>	<p>号外 江別市立野幌若葉小学校 校長：高橋 秀人 Tel 385-3131 Fax 385-3132</p>	<p>学校教育目標 「生きる力を育むために」 自ら考え すすんで学ぶ子（自立） 心豊かで 共に生きる子（共生） 心身ともに健康で 鍛える子（健康）</p>  <p>野幌若葉小学校ホームページ <a href="https://www2.ebetsu-city.ed.jp/wakaba/">https://www2.ebetsu-city.ed.jp/wakaba/</a></p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 江別市立野幌若葉小学校 自己評価及び学校関係者評価の結果より

2月2日（木）に第3回学校運営委員会を開催いたしました。今年度も感染症防止対策のため、教育活動が大きく変更された一年となりましたが、子どもたちのふり返りアンケート、保護者の皆様からの教育活動アンケート、職員の学校評価等をもとに今年度の野幌若葉小学校の教育活動について評価をいただき、学校運営委員の皆様からのご意見も含め、以下のようにまとめました。

### 1 学校経営について（主体的・対話的で深い学びの実現、効果的な教育活動の推進する働き方改革の実施）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を講じながら、工夫して授業改善を行い、学びの保障を進めた。N R Tや全国学力・学習状況調査の結果分析等も踏まえ学力向上委員会を定期的で開催し、統一した指導を進めた。</li> <li>・「勤務時間を意識した働き方」や「業務の効率化、スリム化」の意識化や取組が進んできた。4～7月より8～11月のほうが平均5時間以上時間外勤務が短縮されている。</li> </ul> <p>◎学校改善プランにおける指導を組織的に継続して取り組んでいく。また、授業評価を生かし、改善ポイントを意識して校内研究とともに推進していく。</p> <p>◎会議等の運営をさらに工夫するなど、業務においてスリム化、効率化、平準化を進め、効果的な教育活動が推進できるように働き方改革に取り組んでいく。</p>	<p>○コロナ禍の中ではあるが、各種の取組の説明や授業の様子を拝見すると驚くほどの濃厚な内容であった。</p> <p>○先生方の退勤時刻が以前より早くなってきていることがわかり、働き方改革が進められていると感じている。</p>

### 2 学習指導（基礎基本の定着と授業改善、特別支援教育の充実等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策により「話す」「話し合う」等の活動が制限される面があったが、昨年度よりペアやグループでの話し合い等、できるところから取り組んできた。</li> <li>・学習サポート教員や学習指導員、特別支援教育補助員の配置の工夫、理科専科指導、各種学力調査の分析、家庭との連携等により学力の維持と学習意欲向上を図った。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心に情報を共有し、組織的な支援体制を強化して指導を進めた。</li> <li>・保護者や関係機関と連携を強化して対応の充実を図った。</li> </ul> <p>◎全学年にタブレット端末が導入された。効果的に活用する方法について研修を深めていき、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に推進していく。</p> <p>◎中学校区としての学習規律の指導の徹底を図る。</p> <p>◎学力調査やチャレンジテストの分析を生かして授業改善を進める。</p> <p>◎個別の支援を充実させるため、さらに組織体制を改善し、個に応じた指導方法を工夫していく。</p>	<p>○リコーダーを交代で演奏する等、感染対策をしながらの取組について、マイナスとはとらえずに工夫しながら活動していて素晴らしい。また、図工の作品で個性的なものがたくさん校内に展示されていた。</p> <p>○学級閉鎖中に、タブレット端末を活用して自宅でプログラミング学習をしていた。これからも効果的に活用されていければと思う。</p>

### 3 生徒指導（規範意識や基本的な生活習慣の定着、好ましい人間関係の確立等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響もあるが、高学年になるほど元気なあいさつができない面が保護者や児童アンケート等、地域・見守り隊の方から指摘があった。また、廊下歩行や教室移動の際に、落ち着かない面もあった。</li> <li>・報連相シートやいじめ対策委員会、いじめアンケート、生徒指導委員会等を生かし、情報を共有し、素早く組織的に対応した。</li> <li>・校内適応指導教室を運用することにより、家庭や関係機関と連携し、不登校にならないよう取り組んだ。</li> </ul>	<p>○子どもたちから挨拶されるとこちらから挨拶しやすい。最近手袋をはいていない子たちを見かける。学校でも働きかけをしてほしい。</p> <p>○「命」「人権」「多様性」などについて子どもも大人も共通に認識していくことがいじめを防ぐことにつながるのではと考える。</p>

<p>◎今後も、あいさつや廊下歩行、チャイム席、姿勢など重点的に指導していく。</p> <p>◎キャリアパスポートを生かした自己有用感を高める指導を行う。</p> <p>◎思いやりや生命の尊重、人権等、道徳の学習を中心に豊かな心の育成を継続する。</p> <p>◎生徒指導提要改訂に関する研修を深め、生徒指導や児童理解のスキルを高める。</p> <p>◎関係機関と連携し、児童・保護者への支援をきめ細やかに行う。</p>	<p>○いじめについて、すべて拾いきれているのか。親のつながりで、学校に話していないようなことも伝わってくることもある。スマホやSNSでのいじめが増えてきている。未然防止のための情報モラル教育が必要である。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 4 健康な体作り（体力向上に向けた具体的実践、安心安全な教育環境の充実等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>運動の方法や場所に制限があったが、縄跳び検定を行うなど工夫しながら取り組んだ。また、外部講師による出前授業（走り方教室等）を実施できた。</li> <li>新型コロナウイルス感染症対策委員会において、国や道、市の状況を把握しながら活動基準表の見直しや検討し、全校で統一した指導を進めた。</li> </ul> <p>◎新体力テストの分析から「体力向上プラン」を作成し、授業改善や運動の機会の増加、環境整備を行う。</p> <p>◎情報を素早く共有しながら組織的な指導を行う。保護者と協力・連携のもと、感染症対策を始め、校内外の施設点検や物の整理整頓、衛生的な学校環境づくりを推進する。</p> <p>◎食に関する指導や衛生管理、健康な体づくりを推進する。</p>	<p>○コロナ感染症に関して保護者一人一人の考え方も異なる中で、校長先生を先頭に試行錯誤しながらできることをできる限りやっつけていこうと一丸となり取り組まれていると感じられた。時代の変化に合わせた改善は、なかなか一筋縄ではいかないことも多々あるかと思う。PTAや地域の方と連携して共に進めていきたい。</p>

#### 5 保護者・地域から信頼される学校作り（情報発信、地域の教育資源活用、幼保こ小中連携等）

自己評価に基づく改善の方策	学校関係者評価委員のご意見等
<ul style="list-style-type: none"> <li>参観や懇談の機会が制限され情報共有や連携が難しい面があったが、学校だよりやHP、一斉メール等で積極的に情報を発信した。また、見守り隊の方々と話し合う場を設定できた。</li> <li>コロナ禍ではあったが、外部講師を積極的にお招きし、児童の学びが深まった。</li> <li>令和5年度の小中一貫教育本格実施を見据え、担当者を中心に野幌中学校区での連携を進め、交流活動や組織体制の構築を図った。</li> </ul> <p>◎さらなる情報発信・収集・共有の方法の工夫が必要である。</p> <p>◎地域や外部の資源を確保し、より効果的な教育活動を進めていく。</p> <p>◎本格実施に向け、さらに小中連携を深め、取組を充実させていく。感染症の状況に応じ、幼保こ小の交流、連携の取組も進めていく。</p>	<p>○学校だよりやHP等で学校全体の様子はわかるが、自分の子のクラスの様子が見えないことへの不安は常にある。先生方の負担のない方法で伝える形があればよいと思う。</p> <p>○子どもたちが公園で元気にからだ全体を使って遊んでいる様子をよく見かける。他市から遊びに来た友人がその公園を見て、「こんなに子どもたちが遊んでいる公園を見たことがない。良い所に住んでいるね。」とほめられた。「若葉小だより」にある、学校教育目標「自立・共生・健康」が達成されていると思う。</p> <p>○民生児童委員は、コロナ前に学校見学があった。昼食時を避けて復活させていただきたい。前は野幌若葉自治会だけだったが、開催するのであれば校区の自治会をお願いしたい。</p> <p>○幼保こ小の連携について、職員の見学（交流）などから、始まっていくことを願っている。</p>

貴重なご意見を参考に、今後さらに子どもたちの学校生活がよりよいものとなるよう改善していきます。保護者の皆様や地域の皆様との情報共有や連携を密にしていきたいと考えますので、今後も積極的な情報発信・提供を心がけます。運営委員の皆様には、1年間たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

野幌若葉小学校の児童の健やかな成長のために、学校教育の充実に向けて職員一同努力してまいりますので、今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。